



可視化がつなぐ共通理解： 効果的な意思決定を促す地域データ活用

海士町役場 郷づくり特命担当課長
海士町教育委員会 共育課長
濱中 香理

海士町の概要とAMASASの取組

海士町の概要

島根県の離島・海士町は、人口およそ2,300人の小さな町で、自然の豊かさが特徴です。



島根県 隠岐諸島

島後

隠岐の島町
約14,000人

島前

西ノ島町
約2,900人

海士町(中ノ島)
約2,300人

知夫村
約600人

海士町の自然

- 1963年 大山隠岐国立公園指定
- 1985年 「天川の水」日本の名水百選指定
- 1997年 海域公園指定（環境省）
- 2009年 日本で最も美しい村連合加盟
- 2013年 【隠岐】世界ジオパークに認定



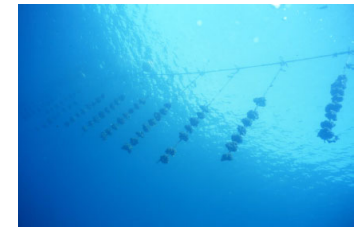
これまで、産業と教育の両面で挑戦と成果を積み重ね、外貨獲得・雇用創出を実現してきました。

海士町の挑戦

産業

いわがき「春香」

おいしく安全なブランドいわがきを生産し、島根県から「美味しまね認証」も受賞



産業

島生まれ、島育ち 隠岐牛

徹底した管理のもと飼育される幻の黒毛和牛



教育

隠岐島前高校魅力化プロジェクト

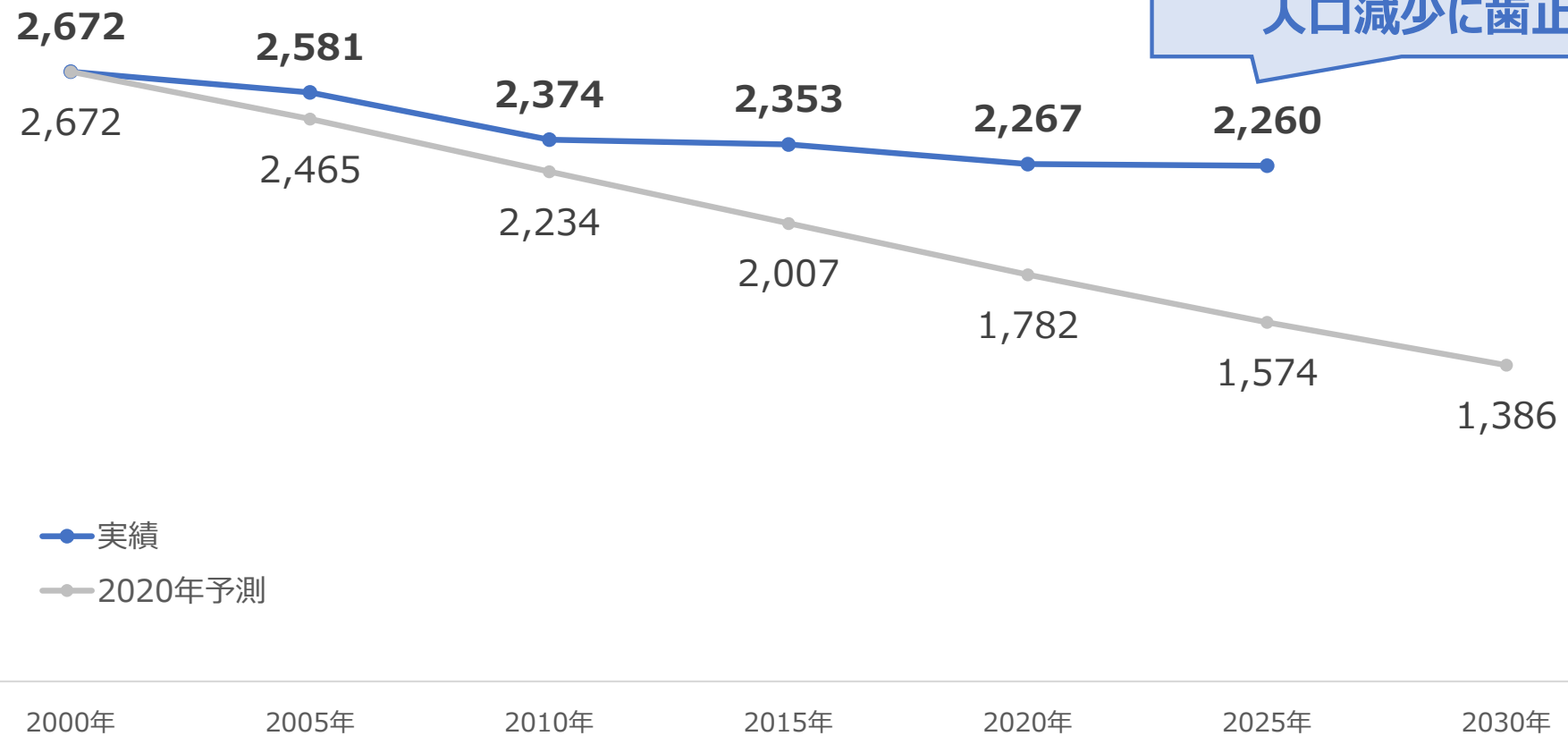
「島留学」をはじめとする取組により、廃校寸前だった隠岐島前高校を再生



外貨獲得・雇用創出を実現

その結果、人口減少に歯止めがかかっている状況です。

海士町人口推移の予測と実績（人）



出所

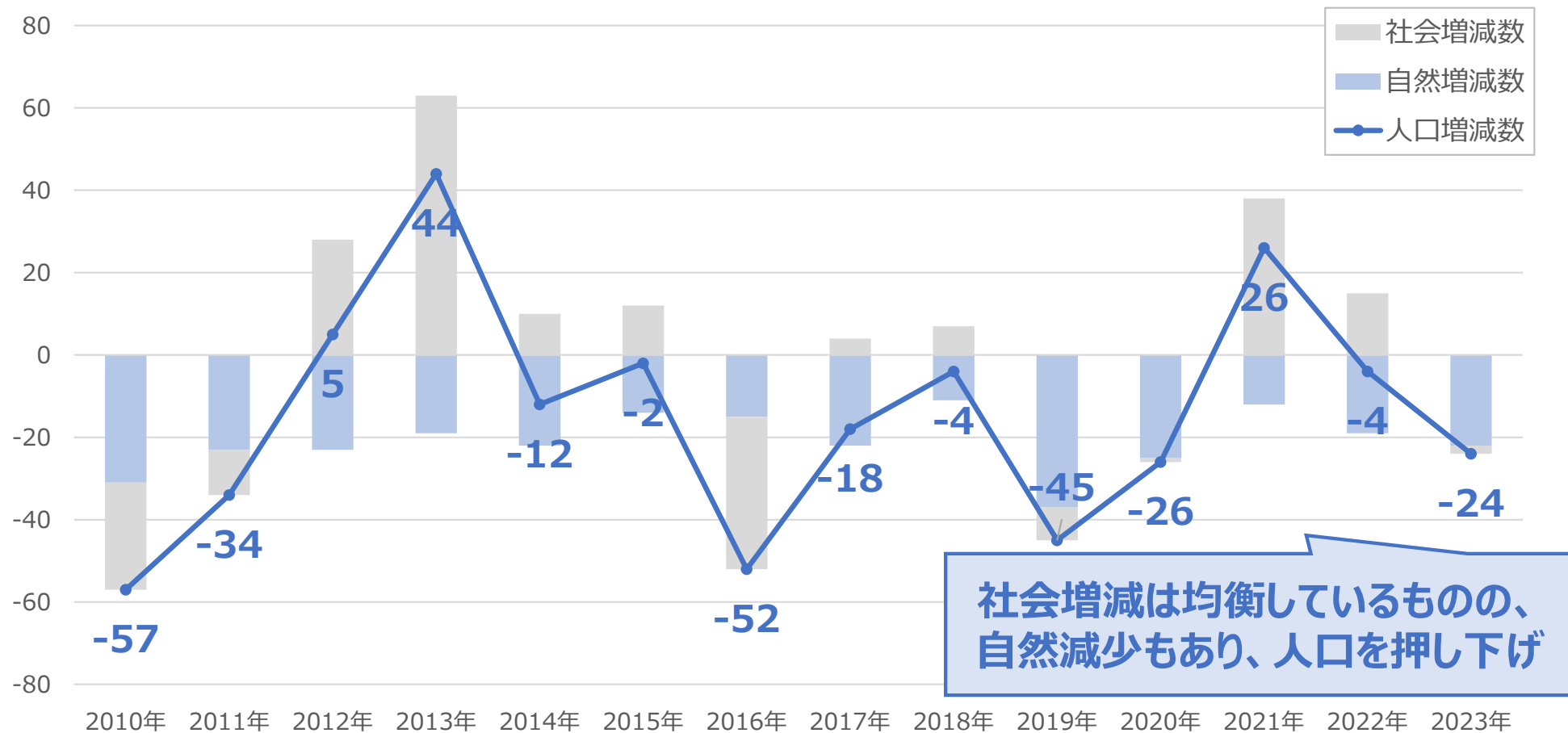
実績：国勢調査 [人口構成分析 - RESAS 地域経済分析システム](#) ※2025年については住民基本台帳より [地区詳細（人口データ） | しまねの郷づくり応援サイト](#)
2020年予測：国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口（平成15年12月推計）」 [日本の市区町村別将来推計人口（平成15年12月推計）](#)

海士町の抱える課題と解決に向けた取り組み

一方で、人口減少傾向であることに変わりはなく、課題は依然残っています。



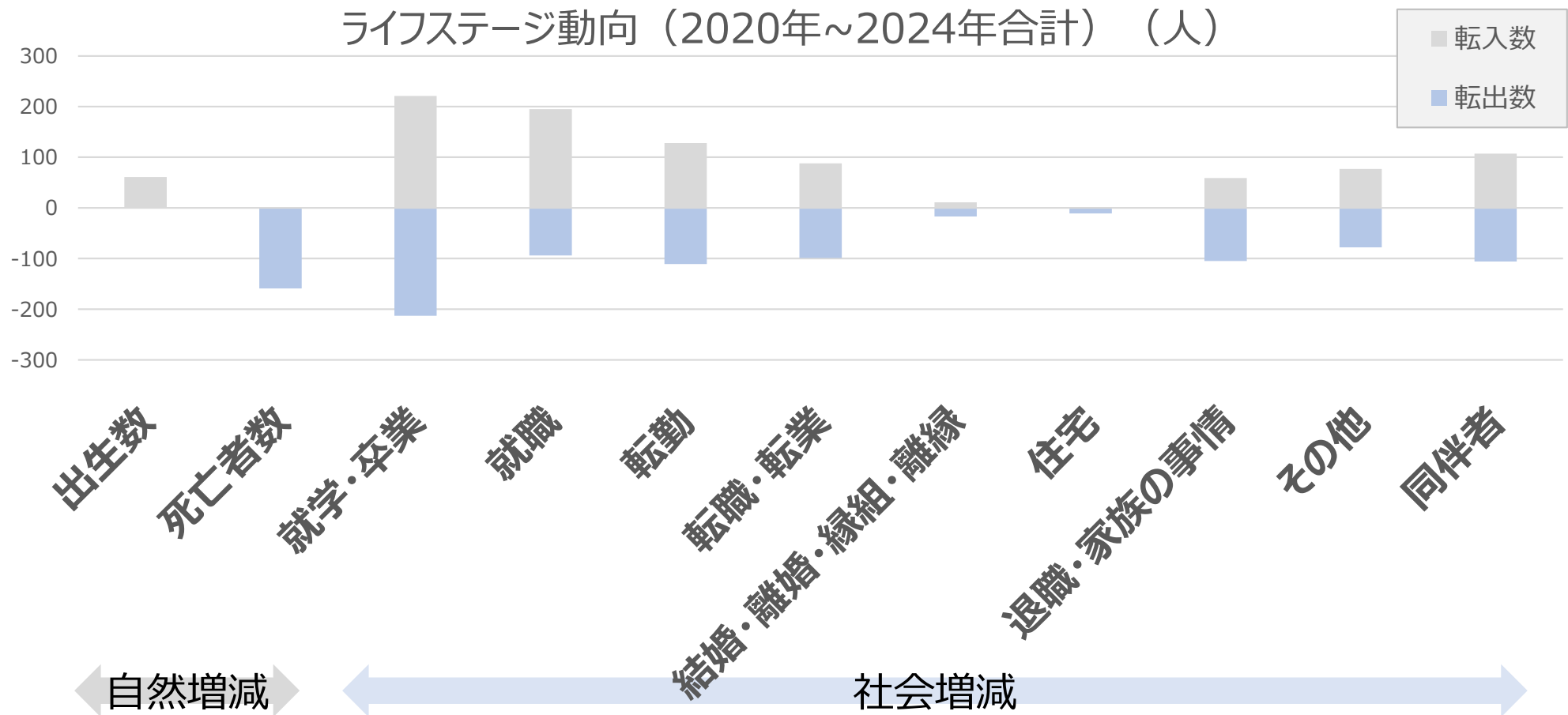
海士町の人口増減数（人）



出所：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工 [人口増減分析 - RESAS 地域経済分析システム](#)

海士町の抱える課題と解決に向けた取り組み

教育・雇用・福祉など、転出要因は多岐にわたり、分野をまたいで課題は複雑に絡み合っています。



転出の要因は教育・雇用・家族関係（福祉）など、多岐にわたる

出所：島根県「しまね統計情報データベース」、住民生活課 [AMASAS](#) より再編加工

そこで、複数の分野を横断して、課題の本質に迫る議論をできる
共通言語としてデータ活用に着手しました。

現状

- 分野をまたぐ課題のため、ステークホルダー間での課題の共有が困難
- 現状認識の段階からすれ違い、すり合わせに時間がかかる

XXが課題かも…



何が課題かわからない…



目指す姿

- データを共通言語として活用
- 客観的な課題認識のもと、合意形成をスムーズに

XXが課題ですね！



施策は〇〇で決めましょう



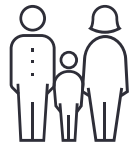
データに基づくことにより、分野をまたいだ議論の質を高める

海士町の抱える課題と解決に向けた取り組み

その結果生まれたのが、地域課題を可視化し、事業者・町民・行政が同じデータを共有できる仕組み「AMASAS」です



社会課題



人口



産業



くらし



健康

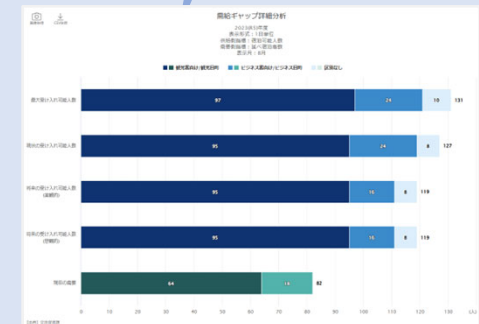
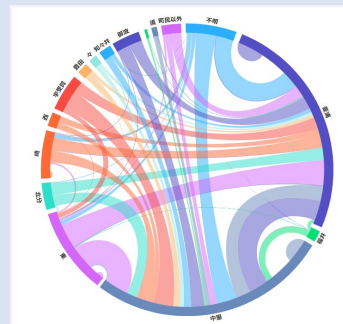
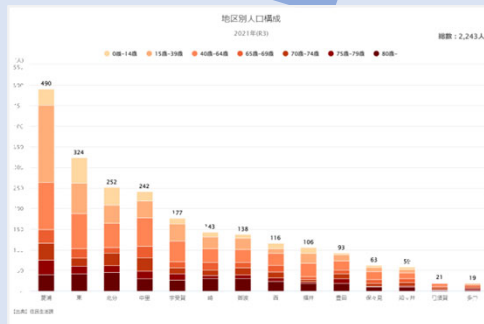
...

海士町役場

地域のデータを
収集・分析

AMASAS

データに基づく
政策・施策立案



「AMASAS」とGoogle等で検索いただければ、どなたでも簡単にアクセスが可能です。（QRコードからもアクセスできます）



【AMASASへのアクセス方法】

- 「AMASAS」とGoogle等で検索
- URL : amasesas.town.ama.shimane.jp



AMASASの特徴

な
い
の
い
海士町

AMASASを使った分析プロセス

地域課題仮説の 検討

- 既存分析データ（RESAS）、ヒアリング等を通じて地域課題の仮説を立案

データの収集・加工

- 各課が持つExcelなども含め、仮説検証に必要なデータを幅広く収集

グラフ等への可視化

- 慣れていない人もすぐに理解できるようにデータを可視化

政策立案

- ・ 可視化された課題を関係者でみながら解決策を議論

単に網羅的にデータを可視化するのではなく、**仮説を立てたうえでデータを可視化して、政策立案に活用**

AMASASでは人口、産業、消費、福祉 等、全10メニュー・44分析画面が搭載されており、様々な地域課題を分析することができます。

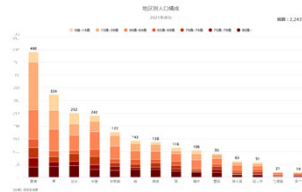


分析メニュー

分析画面

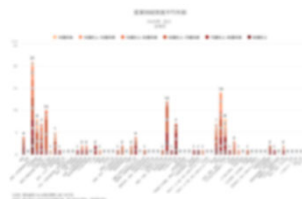
分析からわかること

人口



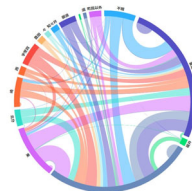
- 各地区の人口構成、経年での変化
- 転入/転出する人のライフステージ、世帯構成
- 第何子の出生が多い/少ないのか、結婚している年代

産業



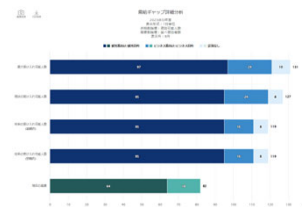
- 経営者が高齢化し、事業承継等が求められている産業
- 雇用を支えている産業、島内事業者が持つスキル
- 農地や担い手の推移、およびそれらの維持が困難な地区

消費



- 購入者、立地、地区、年齢別の消費傾向
- 消費内容やそれらの販売・営業等の強化の余地
- 関係人口・観光客1人あたりの経済効果

観光



- 観光の需給ギャップが生じている時期
- 宿の供給力が逼迫している時期、将来的な逼迫予想
- 観光産業が島内の産業にもたらす波及効果

教育



- 小学校の学年ごとの生徒数の推移、複式学級の必要性
- 人間力（海士町独自の人づくりの指標）の高い部分やその推移

AMASASでは人口、産業、消費、福祉 等、全10メニュー・44分析画面が搭載されており、様々な地域課題を分析することができます。

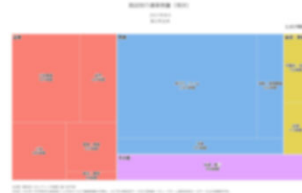


分析メニュー

分析画面

分析からわかること

福祉



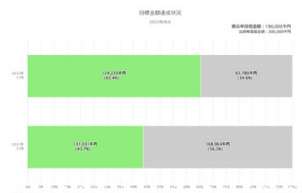
- 地区や要支援・要介護の段階別の介護が必要な人数
- 介護施設での介護業務の負担
- 介護予防や生活支援に向けて注力すべき領域

住宅



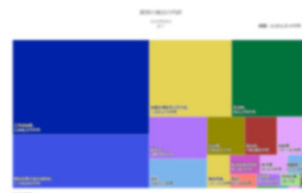
- 町営住宅に入居する人の傾向（所属産業、居住期間）
- 各地区の住宅数、そのうち使える空き家の数
- 将来的な住宅の需要と供給の推移、住宅不足の予測

ふるさと納税



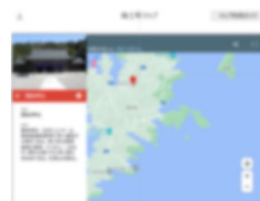
- ふるさと納税返礼品として人気のジャンル・商品
- 寄付の多い地域、高頻度/高額で寄付している人が多い地域
- 目標に対する寄付の達成率、指定されている使い道

財政



- 金額が多い役場の歳出、地域外に漏れている金額
- 各主管課で各節に使われている金額、地域外に漏れている金額
- 各債権者に支払われている金額
- 将来の事業計画、各事業ごとに想定されている金額

マップ



- 海士町のバス停や文化財の場所
- 後鳥羽院に関連するスポットの場所

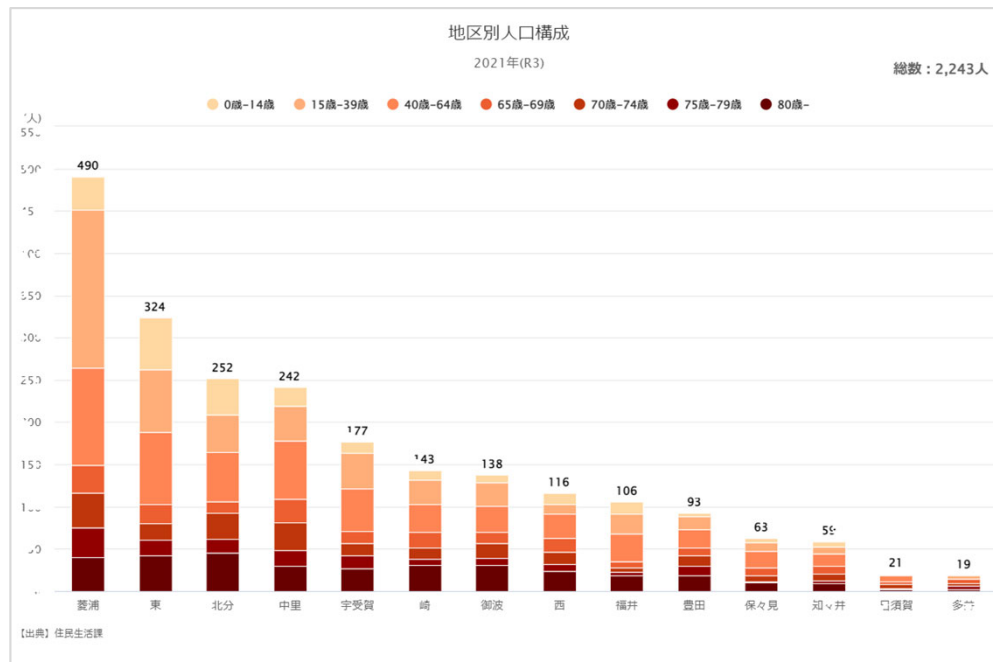
AMASASの特徴 ②誰でも理解できるシンプルなデータ可視化

AMASASでは多様なデータを分析し、結果を直感的に理解できるシンプルなグラフで出力。誰でも使いやすく、意思決定に活用できます。



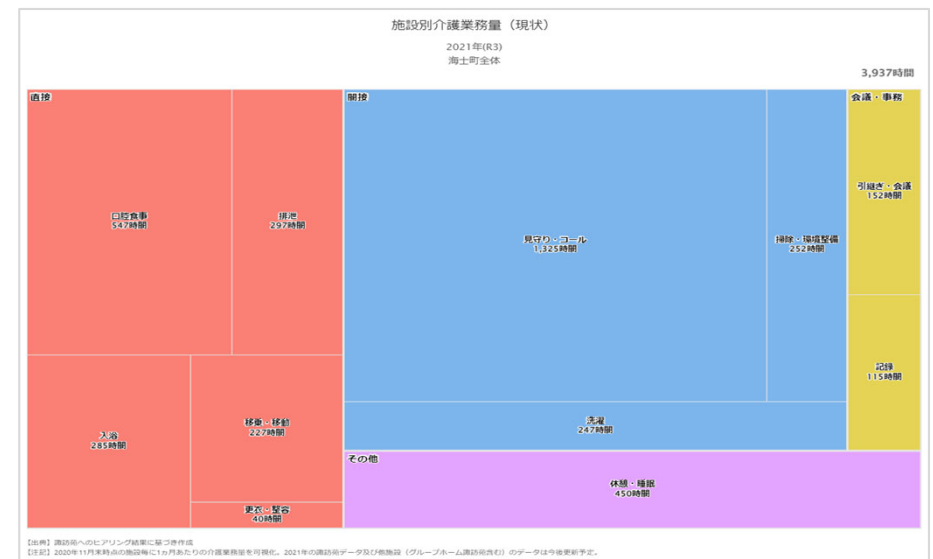
人口グラフ例

地区別×年齢階層別の人口構成を直感的に理解できる



介護グラフ

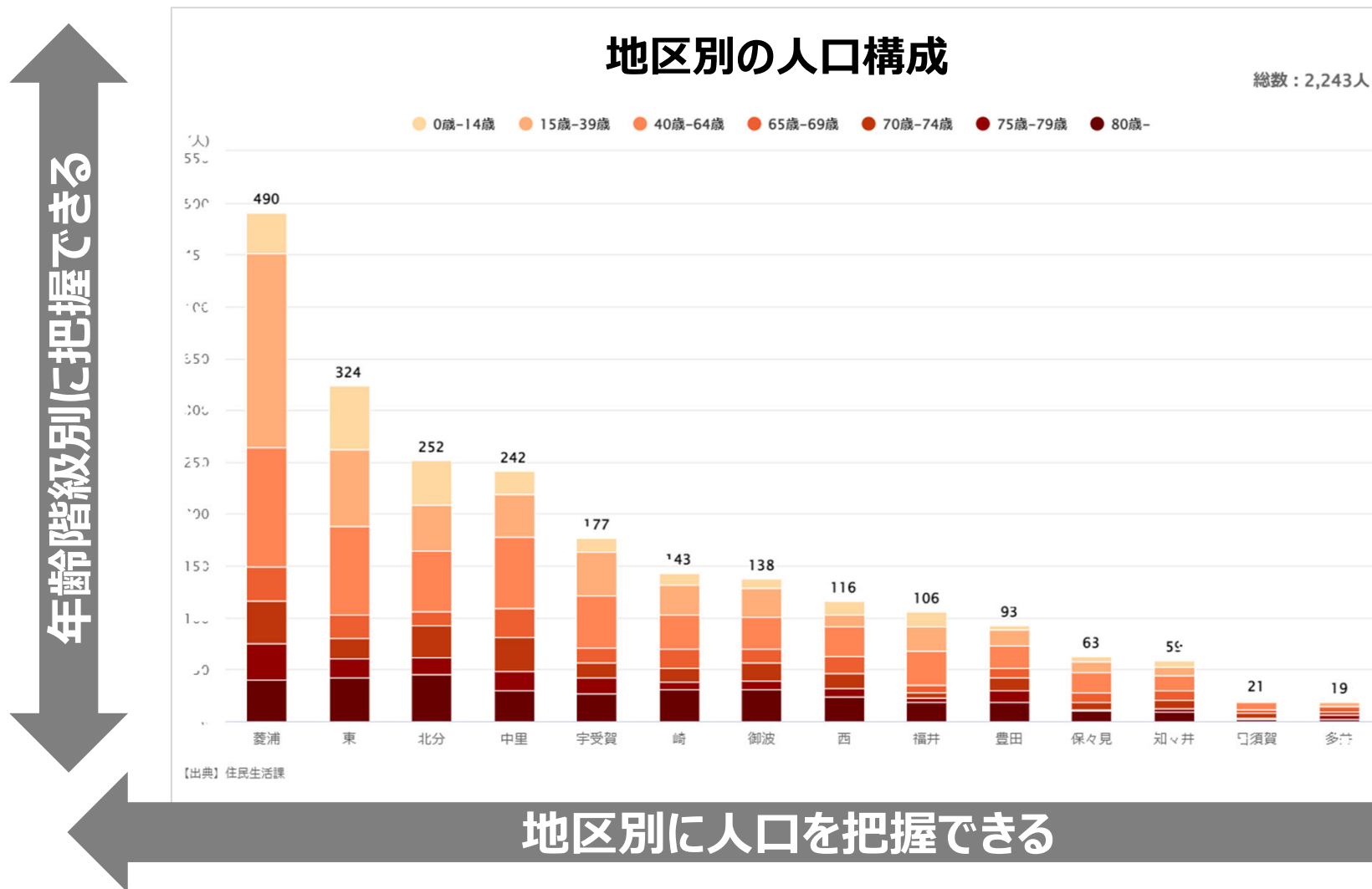
介護業務量の全体像を把握でき、負荷の高い業務を直感的に理解できる



AMASASのシンプルなグラフは、政策立案や住民向け資料に活用され、誰もが理解しやすい形で課題共有を促進します。

AMASASの特徴 ③地区視点での分析が可能

自治体単位よりも細かい粒度で分析できるため、より具体的な施策の検討に役立ちます



具体的なAMASAS活用事例

役場、事業者、学校、住民など幅広く活用が広がっており、
本日は地域包括ケア会議や介護DXの取組における事例をご紹介します



これまでの活用実績

合計16件(うち役場7件、事業者3件、学校5件、住民1件)

計画策定、補助金申請、会議での分析結果の共有、学校授業の題材など

本日ご紹介

活用事例

地域包括ケア会議
高齢者の離島要因の分析

介護施設の負担軽減
(介護DX)

取組概要

海士町では高齢者が老後の暮らしへの不安から島を離れるケースが多い。海士町では**特に何が暮らしへの不安につながっているのか分析**し、課題の共有、施策の方向性の検討を行った。

海士町唯一の特別養護老人ホームにおいて、介護業務の負担軽減が喫緊の課題であった。特に**どの業務に負担がかかっているのか分析**し、関係者に共有することで、介護DXの取り組みが進み、負担軽減の足掛かりとなった。

データを活用し、議論と住民理解を深める

AMASASのグラフは、地域包括ケア会議での高齢者課題の議論に加え、住民向けパンフレットにも活用され、課題共有と理解促進に役立っています。



政策立案の現場で活用

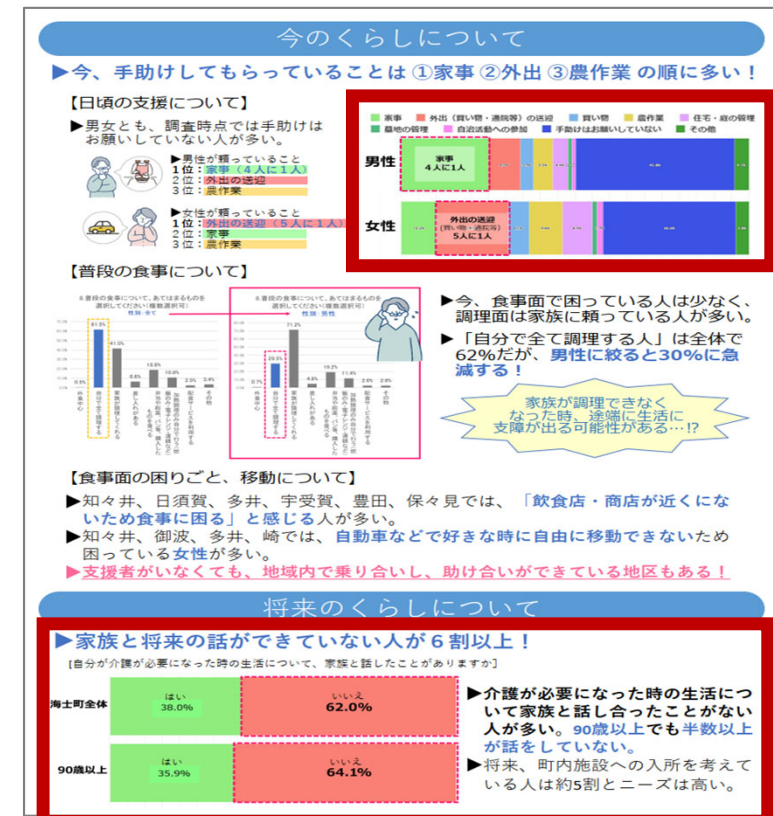
- 地域包括ケア会議等で課題整理と対応策の検討に利用
- データに基づく議論で迅速な合意形成



地域ケア会議での議論の様子
役場、社会福祉協議会、診療所など
多様な主体が共通データをもとに議論

町民向け資料に活用

- 資料にグラフを掲載して課題をわかりやすく説明
- 町民の理解促進に役立つ



「地域ケア会議では、高齢者が離島する要因を『身体的要因』『家庭環境要因』『社会的要因』の3つに分類できると仮説を立てました。」



なぜ高齢者は島を離れるのか

身体的な
要因

- 自立した生活を送ることができない（入所案内・自立支援へ）
 - ✓自由に動くことができない、もしくは危険である
 - ✓認知機能の低下、生活リズムの悪化により食事の管理・準備・摂取ができない

家庭環境の
要因

- いずれ家での介護が必要となるが、ケアをしてくれる人がいない
- 家族（子供など）と住む場所が離れている

社会環境の
要因

- 商店へ買い物行きたいが徒歩圏内にないため移動が不便
- 車がない/運転できないため本数の少ないバスを利用する
- 定員数や医療水準の観点から求める介護・医療サービスが受けられない（透析ができない、など）

具体的な活用事例①：地域ケア会議：データ収集・可視化・政策立案

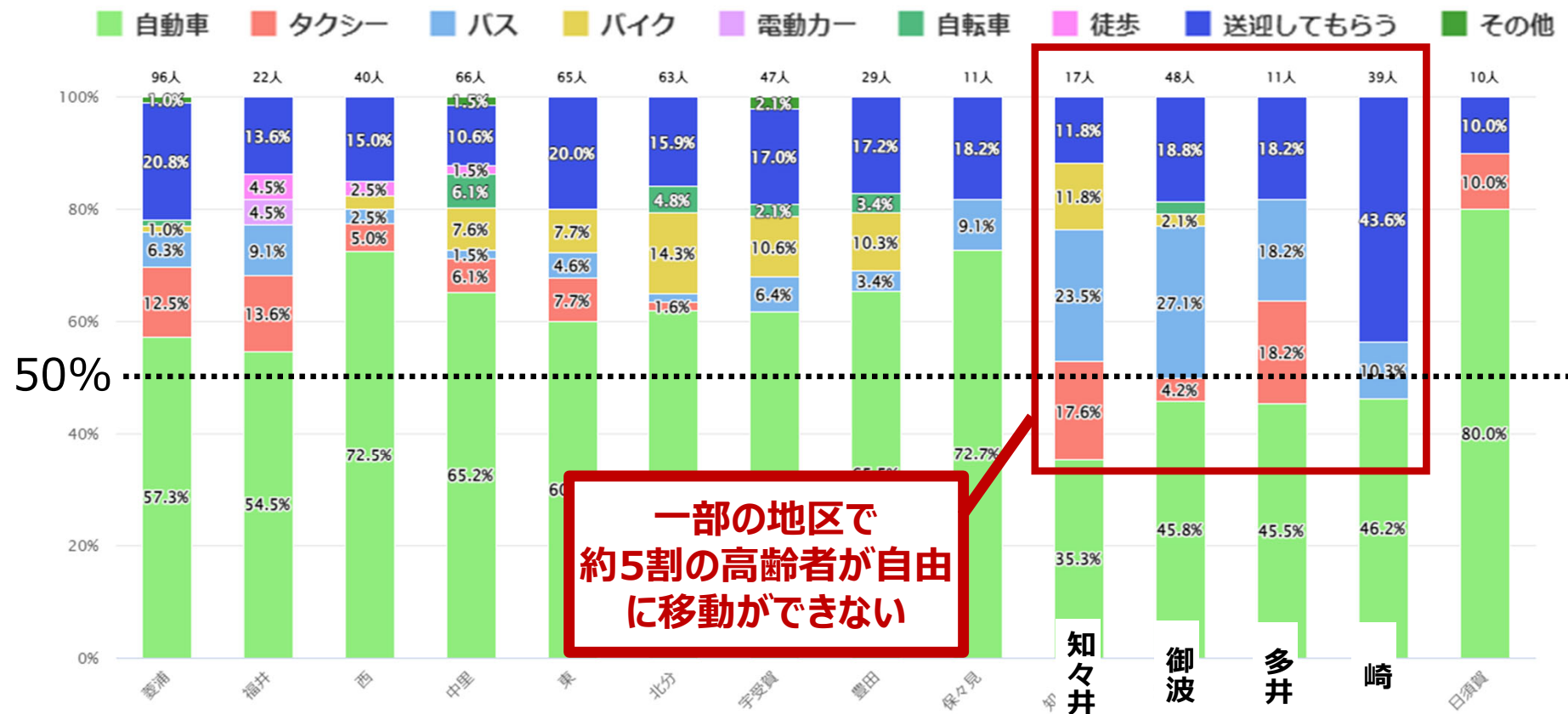
『社会的要因』の分析として、移動ニーズをアンケートで調査・可視化した結果、一部の地区では約5割の高齢者が自由に移動できないことが判明しました。地区ごとに必要な支援が異なることが明確になりました。



地区別高齢者の生活の割合

総数：564人

地区外への移動の際はどのような交通手段で外出することが多いですか



一部の地区で
約5割の高齢者が自由
に移動ができない

【出典】実態調査データ

【注記】割合 = (該当選択肢の回答数/全体の回答数) であるため、「複数選択可」の設問については、グラフの使用をお控えください

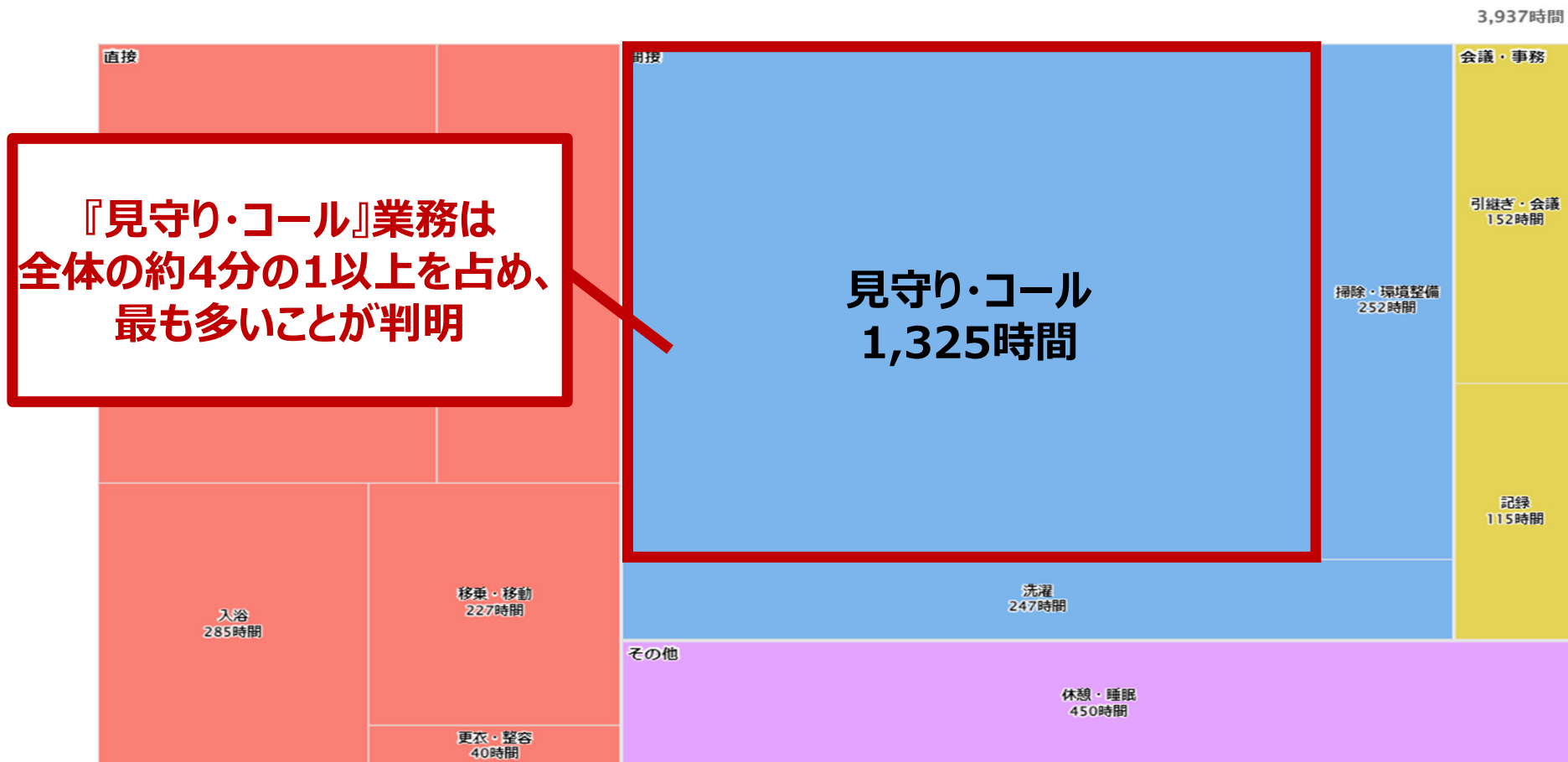
具体的な活用事例②：介護DXの推進：業務量の可視化

町内の介護施設の業務負荷を軽減するため、業務量を可視化した結果、『見守り・コール』業務の負担が最も大きいことが判明し、負担軽減策の検討を開始しました。



施設別業務量の可視化

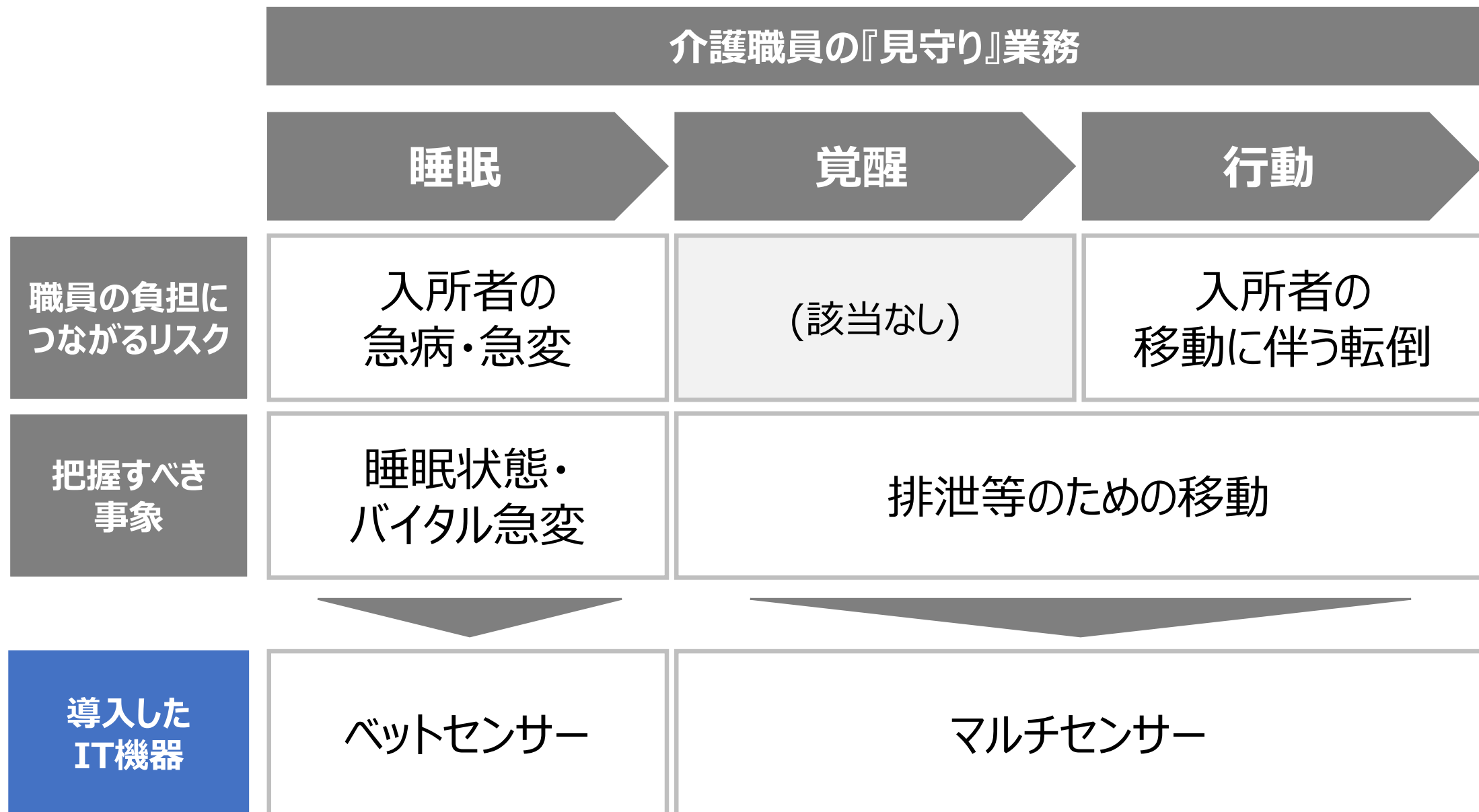
2021年（R7）



【出典】 諏訪苑へのヒアリング結果に基づき作成

【注記】 2020年11月末時点の施設毎に1ヵ月あたりの介護業務量を可視化。2021年の諏訪苑データ及び他施設（グループホーム諏訪苑含む）のデータは今後更新予定。

見守り業務の詳細調査の結果、『睡眠』や『行動』時に入所者の急病・急変、転倒リスクで職員の負担が大きいことが判明しました。バイタルセンサーやマルチセンサー導入により、業務の負荷軽減につながりました。



継続的なデータ活用に向けて

継続的にAMASASを管理・運用をしていくためには、これまでの体制に加えて、データ活用するユーザーを巻き込んだ体制づくりが必要です

データ収集

データ加工

データ更新

継続的にAMASASを管理・運用していくための体制づくり

課題

- データ収集の遅れ
- データの管理方法・フォーマットが統一されていない

- 作業が特定の人に依存
- 更新作業に手間がかかる

- 更新スケジュールが遅れる
- 更新内容の共有不足

改善に向けた
対応方針

事務局だけの管理・運用ではなく、
データを活用するユーザー（役場職員、事業者、商工会など）を
巻き込んだ持続的な体制づくりが必要

データ活用文化の定着と協働体制の構築により、AMASASの普及と地域全体での利活用を加速させます



	課題	対応方針
普及の余地がある	役場全体や事業者・住民での活用はまだ限定的	普及促進のための広報・説明会の実施
データ活用への慣れ	データを活用した議論や業務に慣れておらず、意思決定での活用が後手に回る傾向	定期勉強会で職員のスキル向上、活用事例の共有
上層部の機運醸成	データ活用の文化が未成熟で、管理職層の理解・推進が不足	管理職によるデータ活管理職によるデータ活用文化の醸成、体制づくり

ご清聴ありがとうございました